

◆◆ センメルweis大学創立 250 周年記念式典に出席して ◆◆

副学長／総合医療センター血液内科 教授 木崎 昌弘

センメルweis大学はハンガリー最古の医科大学であり、ビタミンCを発見したSzent-Györgyi博士など幾多のノーベル賞受賞者を輩出している欧州でも有数の教育水準を保つ大学です。本学とは15年以上にわたり相互交換留学を行っており、これまで30名以上の本学学生がハンガリーで学び、同数の学生を受け入れてきました。このような長い交流のあるセンメルweis大学より別所学長に創立250周年記念式典への招待状が届きましたので、学長代理として2019年9月5日から8日まで保健医療学部辻美隆教授とハンガリーを訪問してまいりました。

期間中は、学長Béla Merkely教授、医学部長Miklos Kellermayer教授、国際交流部長Marcel Pop教授や外科József Sándor教授など多くの方々との会食やお話しする機会がありましたが、センメルweis大学がいかに埼玉医大との交流を大切にしているかを感じました。今回の式典には世界各国から多くの関係者が招待されていましたが、アジアからは本学と国際医療福祉大学のみが招待されました。9月6日（金）の創立250周年記念式典は、2000人以上収容出来ると思われるドナウ川沿いの新しいコンサートホールで開催され、同時に今年度の入学式も行われました。ハンガリーの第二国歌が演奏される中、国旗とともに正装した大学幹部が満員の会場に入場し厳かに式典は始まりました。学長、医学部長や主要な大学関係者とともに人材省大臣などの挨拶の後に、ハンガリー語、ドイツ語、英語クラスの新生たちの医学に対する誓いの宣誓が行われ、最後に壇上のフルオーケストラによるブラームス「大学祝典序曲」の演奏に続いて国歌斉唱の中で厳粛な式典は終了しました。翌7日（土）には500名は入ろうかという大講堂で学生を対象とした医学教育に関するパネルディスカッションが行われました。



Kellermayer教授の司会で、Merkely学長の基調講演の後に私を含む各国からの6名のディスカッサントによるパネルディスカッションが行われました。医学教育における国際化、プロフェッショナリズム、アセスメントの方法など多くのことが議論されましたが、内容としては我が国における議論とそれほど変わらない印象でした。しかし、より実践的な医学教育をいかにすべきかという世界の潮流の中で、厳しい医師国家試験をクリアしなくてはならない我が国でどのように理想的な医学教育を実践していくかも一度原点に立ち戻って考えなくてはいけないと痛感しました。

短い期間でしたが、辻教授のご案内で美しいブタペストの街を散策するとともに、美味しいワインと料理を堪能できました。本学とセンメルweis大学の強い絆を感じた3日間でしたが、これも国際交流センターをはじめとする両大学関係者と相互交換留学に参加した学生諸君の熱意の賜物であることを強く感じました。



創立250周年記念式典



パネルディスカッション